

2025年1月27日、米国市場で人工知能(AI)関連銘柄の株価が大幅に下落しました。直接の原因は、2023年に設立された中国のディープシーク社が、低コストで生成AIモデルを開発し、提供することにしたというニュースでした。重要な点は、モデル開発費用は約560万ドルだったと同社が発表したことです。

これまで、AI関連の投資には膨大なコストがかかることされており、市場参加者は、全体としての過剰投資を心配し始めていました。少なくともすべての関連企業が生き残れそうにない中での投資競争になっている、との理解が進んでいたわけです。各企業も勝ち組になるためには、過剰なまでの投資で他を圧倒する必要があるとみていました。しかし、仮に中国企業の言い分が正しく、高性能のAIを低価格の半導体や開発環境で作ることが可能となれば、この投資競争が無駄になりかねません。売上拡大に伴う投資拡大により、経済規模が拡大すると期待した投資家にとっては、投資リスクが増したことになるでしょう。

ただし、低コストで開発したAIが引き続き厳しい競争環境の中で「高性能」であるとして勝ち残るのかはまだ分かりません。现阶段で他のAIに遜色がないように

見えても、長く続くのかは予想が難しいです。また、低コストモデルの普及が、差別化のための高コスト・高性能なAI開発に拍車をかける材料となる可能性もあります。

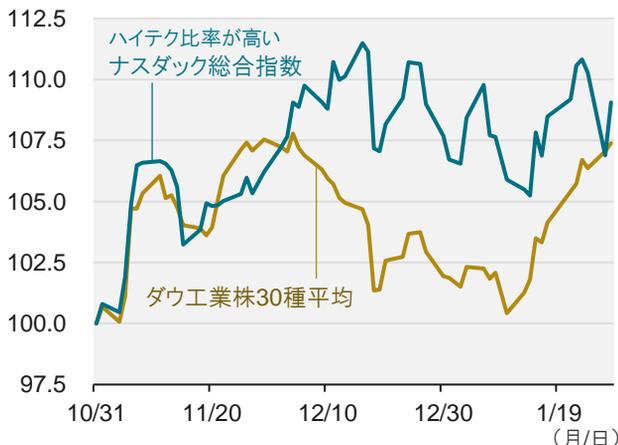
ディープシーク・ショックは、これまで市場の一部で心配されていた、AI関連企業の多額投資への反応と言えます。これから行われるAI関連企業の決算説明会などで、経営者がこのことをどのように評価するかが注目されるでしょう。現時点、AI関連市場では、多額投資で高性能を追いかける企業と、低コストを目指す企業に分かれて行くこととみて、各社の戦略と収益力を見極めるタイミングになるでしょう。AIのユーザーであるIT企業が高機能品と普及品をどう使い分けるようになるのかも、注目する必要があります。

今後、しばらくは各企業の対応を見極める調整期間が必要ですが、安全保障の観点から中国製品の利用には世界的に制限があることもあり、AI業界が普及品の拡大と高機能品への投資競争に分かれていくことで、高機能品に強い米国企業の開発力が評価され続けると予想します。

[米国の主な株価指数の推移]

(2024年10月末～2025年1月28日)

(グラフの起点を100として指数化)



ディープシークについて

- オープンソースのAIモデルを開発するスタートアップ企業。中国のクオンツヘッジファンドが母体で、2023年に設立。
- 2024年11月に人間の思考を模倣するように設計された推論モデル「DeepSeek R1」を発表、2025年1月にリリースされたウェブインターフェースと併せて、オープンAIの代替となる安価な製品として世界的に注目を集めています。

※当資料の記載銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンダにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

信頼できると判断した情報に基づき、日興アセットマネジメントが作成 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。
※指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。